

ISO/TC225 WG3 第3回国際会議、TC225 第8回総会参加報告

ISO20252 認証協議会 委員長 一ノ瀬 裕幸
同委員 浅野 怜祐

1. 両国際会議の概要

”Web Analyses”の ISO 化に向けた TC225/WG3 の第3回国際会議と、4年ぶりとなる TC225 の第8回総会がカナダ・トロントで開催された。

(1) TC225/WG3

日時： 2015年10月7日(水)

会議名： ISO/TC225 WG3 第3回国際会議

参加者： WG3 メンバー (6カ国+2 オブザーバー機関、計14名参加)

Convenor: Mr. Erich Wiegand (ドイツ ADM 代表)

Secretary: Mrs. Annette Altenpohl (オーストリア ASI 事務局)

参加国： 日本 (一ノ瀬、浅野：2)、イギリス(1)、カナダ(2)、オランダ(2)、アメリカ(1)、
オーストリア/ドイツ(WG3 議長国：3)、ESOMAR (オブザーバー：1)

WAPOR (オブザーバー：1)、AENOR (スペイン TC225 事務局：1)

場所： トロント Environics Research 社会議室

※1) スペインは文書発言のみ、AENOR 事務局は国および業界を代表しない

※2) オーストリアとドイツは、1つの代表国としてカウント

(2) TC225 総会

日時： 2015年10月8日(木)～9日(金)

会議名： ISO/TC225 第8回総会

参加者： TC225 P メンバー (7カ国+2 オブザーバー機関、計17名参加)

Convenor: Mr. Don Amberse (カナダ MRIA 代表)

Secretary: Mrs. Natalia Oritz de Zarate (スペイン AENOR 事務局)

参加国： 日本 (一ノ瀬、浅野：2)、イギリス(1)、カナダ(4)、オランダ(2)、アメリカ(1)、
オーストリア/ドイツ(3)、オーストラリア(1)、ESOMAR (オブザーバー：1)、

WAPOR (オブザーバー：1)、AENOR (スペイン TC225 事務局：1)

場所： トロント Environics Research 社会議室

※1) オーストラリアがこの総会から参加、7カ国での会合となった

※2) WG3 事務局の Annette 氏は帰国、代わってドイツの Holger 氏が参加

2. 討議/決定事項

(1) WG3 では、Web Analyses の新規格に関する前回までの討議内容を反映した3次ドラフトへの各国のコメントに沿って議論を行い、参加者の同意を得た。表現等の詳細を詰めるため

の最終起草チーム（議長 Erich 氏、事務局 Annette 氏、オランダ Ed 氏、カナダ Annie 氏）を編成して 10 月中に成案を作成し、参加各国に送付される。

なお、この最終案は CD (Committee Draft : 委員会原案) の段階をスキップし、DIS (Draft International Standard : 国際回覧に付すもの) として登録する方針とすることが確認された。主要な P メンバーが揃い、議論が十分に尽くされたとの判断である。

※) CD をスキップして DIS とする承認条件は、①P メンバーによる投票の 2/3 以上の賛成と、かつ②反対が投票総数の 1/4 以下であること。

(2) TC225 総会では、事務局の活動報告とともに最新のトピックスが紹介され、事前に実施された各国へのアンケート結果を参考に、新議長となる Don 氏による新体制のもとでの、今後のあるべき方向性に関する議論が行われた。

本総会での決定事項は以下の通り。

① 関連する TC へのリエゾン（連絡役）派遣

- i) TC290 Online Reputation (オンラインでの評判) : カナダの Annie 氏を派遣
- ii) TC289 Brand Evaluation (ブランド評価) : ドイツの Holger 氏を派遣
- iii) TC69 ad-hoc group on Big Data (ビッグデータ作業部会) : WAPOR の Tom 氏を派遣

※) TC69 は古くからある統計の技術委員会。TC289 (議長国アメリカ、事務局は中国) と TC290 (議長国フランス、事務局はスペイン) は、いずれも 2014 年に成立した技術委員会 (日本の参加は不明) である。このように、市場調査にも関わるテーマが各所に登場するようになっている。

② 新たなリエゾンの招聘 (2 団体)

APRC (the Asia Pacific Research Committee: JMRA も加盟)、
ARIA (the American Research Industry Alliance) を、Liaison A 組織として招聘する。

※) Liaison A とは、ISO 内では最上格の連絡組織。現在の ESOMAR と WAPOR も「A」である。

APRC はオーストラリアの Elissa 氏、ARIA はカナダの Mark 氏とアメリカの Peter 氏が担当。

③ TC225 の事業活性化のため、2 つの臨時作業部会を設置

- i) Business Plan (TC225 自身の事業計画) : ESOMAR、イギリス、カナダ、事務局
- ii) Communication (コミュニケーション) : オーストラリア、イギリス、カナダ

④ ISO26362 の、ISO20252 への組み込みを決定

ISO26362 (アクセスパネル) を、ISO20252 の下部構造に組み込む作業を開始するための、2 つの臨時作業部会を設置する。

- i) Exploratory (複数の国際規格をパート構造に組み直す方法に関する探索)
: オーストラリア、ドイツ、アメリカ、ESOMAR、カナダ、事務局
- ii) Access Panel (アクセスパネル規格としての内容見直し、改訂)
: アメリカ、カナダ、オランダ、日本 (一ノ瀬・浅野)

3. 今後の作業スケジュール

- ① いずれの作業部会も、2015 年中 (~12 月末) にレポートをまとめ、TC 内に回覧する。
- ② 2016 年 3 月 11 日 (金) ~12 日 (土) に、再度 TC225 の会議をロンドンで開催する。
- ③ その次の会合は、WG3 と同時に 2016 年秋をメドに開催する (暫定的に 10 月 5~7 日、

マドリッドを予定)。

4. 会議の状況と関連情報

(1) 激論の末、ISO26362のISO20252への組み込みが決定

- ・ 事前のTC225のアンケートで「組み込み派」の優位が予想されていたが、オランダとオーストリア/ドイツの強硬な反対にあって議論は行きつ戻りつし、最終的には採決に持ち込まれた結果、6対1（オランダが賛成に回った）で押し切る形となった。
ただし、実現までにはいくつかの手順を踏む必要があるため、作業部会を設けて慎重に対処する運びとなっている。
- ・ 反対意見の主なものは、すでに相当数のISO26362認証取得社があり、市場に混乱を呼ぶ恐れがあること、ISO20252の下に組み込まれてしまうと適時適切な改訂が困難になるという懸念等であった。
- ・ 逆に、組み込み賛成派の意見としては、アクセスパネルを用いた（主にWeb）調査が成熟し、すでに市場調査手法の主流になってきていること、2つの認証スキームを構築（または維持）する財政的な負担を軽減すること等があげられた。

(2) Web Analysesについては独立規格として制定へ

- ・ 日本は「Web AnalysesについてもISO20252の下部パートに」と主張してきたが、事前のアンケートでは全くの少数派で、今回はあらがう術もなく独立派に押し出された。
ただし、独立派の主たる理由は「まだ市場、技術ともに成熟していないから」「少なくとも今の段階では独立規格でよい」というものであるため、将来的にISO20252のパートに組み込まれる可能性がなくはないことを記しておきたい。

(3) 日本も応分の貢献を

- ・ 2. (2) ④ ii) に記載の通り、ISO26362の改訂作業グループに日本（一ノ瀬、浅野）がノミネートされることとなった。たくさんの作業グループが発足し、7カ国しか参加国がない中で日本もどこかで貢献せざるを得ず、引き受けることになったものであるが、わが国の実情に即した改訂内容を実現するためのよい機会と考える。
この機会に、ISO26362の認証スキームを同時に検討していくこととしたい。

(4) アメリカとオーストラリアが久々に登場

- ・ アメリカは依然としてWG3に消極的ではあるが、久々に代表を送り込んできた点については評価してよいと思われる。この分野での先進国であり、代表のPeter氏も実務家として著名な人物であることから、今後の貢献が期待される。
- ・ オーストラリアはWG3を欠席し、TC225総会のみでの参加となった。代表のElissa氏に確認したところ、財政的な事情と会員企業のニーズの問題から、今後もWG3に関わるつもりはないとのことであった。

(5) 2017年（春）にTC225東京会議の要請

今回は3月にロンドン、その次は暫定的に10月のマドリッド（ESOMAR Congress に合わせ、9月にニューオーリンズの可能性もある）まで会議日程が調整された。

ここで、まだ「要請」の段階ではあるが、「その次くらいにぜひ東京で」とのリクエストを受けた。本当は「来年中に」だったものを、「ESOMAR APCとAPRC総会がいずれも東京なので」とお断わりした手前、その翌年の要請についてはなかなか断りきれなかった次第である（ISOの会議は「五大陸持ち回り」が理想とされているため）。

タイミング的には、ISO26362を組み込んだ新ISO20252と、Web Analysesに関する新規格（ISO19731）の最終討議の場になる可能性が高い。関係各所と検討・調整を進めていくこととしたい。

<TC225参加者>



以上